

注目の新設校インタビュー

お話 国際学院中学校 (認可申請中)

国際学院高等学校 校長 大野博之 先生



編集部 よろしくお願ひいたします。

大野 国際学院では、開学以来、「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」の建学の精神のもと、実践的、経験的な専門教育とともに、人間教育に重点をおいた「人づくり」に力を注いできました。「礼をつくし、場を清め、時を守る」という教育方針は、1963年の学院創立当初から掲げられ、当たり前なことを当たり前に行うことにより、豊かな人間性を備えた人材を数多く輩出してきました。この歴史と伝統を継承し、未来を担う人材の育成をとおして社会貢献を果たすことこそが国際学院の使命と考えています。

編集部 来春開校する中学校はどのような中高一貫教育を目指すのでしょうか。

大野 国際学院では、一貫した教育課程や学習環境の中で生徒を育てます。ヨーロッパの諺に「習慣は第二の天性である」とありますが、6年間という期間をかけて、「知育・徳育・体育・食育」のバランスの上に、良き学習習慣や生活習慣を確立します。「学ぶ」とは本来『まねぶ』ことであり、人間は模倣を繰り返すことによって学習します。この経験を積み重ねていくと、形式を真似ることを超えて、物事の根源的な意味を追求しようとする知的好奇心が動き出し、真に学ぶ楽しさを知ることができます。国際学院の生徒は、「関心の喚起」から「理解の深化」、「参加する態度」や「問題解決能力」の育成を通じて「具体的な行動」を促すという一連の学びの中で自己を成長させていきます。単に知識の獲得にとどまらず、体験や体感、探求や実践を重視します。全人的な発達を遂げる青春期に、個人の能力を最大限に伸ばすことのできる体系的な教育が展開できるよう中高一貫校として教育環境を整備しました。

編集部 中学から入学した生徒は、高校で入学した生徒と一緒に勉強するのですか。

大野 中学から入学した生徒も高校で入学した生徒も、国際学院中学校高等学校の生徒として、体育祭

や五峯祭(文化祭)などの学校行事を協力して行い、お互いの人格の陶冶と本校の伝統の向上に努めますが、中学から入学した生徒は先取り学習などを行っておりますので、授業を一緒に受けることはありません。

編集部 中高一貫校で育てる生徒像をお願いします。

大野 「未来を創るグローバルリーダー」です。現在、世界と日本は大きな変化に直面しています。このようなときには、過去の延長線上でものを考えるだけでは、問題解決は難しくなってきます。大切なことは、新しい環境変化を自分の頭でしっかりと把握理解し、そこで発見した問題を解決していく能力です。国際学院の生徒は、学ぶことで自分の能力が高まることを楽しみながら学習し、自己の可能性を無限に追求していきます。教師のフィードバックを得て、新しい気づきを発見し、「覚えること(knowledge)」から「できること(competence)」へ、そして「変化に対応し、自らを改善し続けること(capability)」へ、と成長していきます。

編集部 理想像の点ではいかがでしょうか。

大野 「勤勉性」を備えた「知的に正直」な青年です。「自尊感情」を育み、困難に際しても「前向き」に課題解決し、世界中の何処へ行っても活躍することのできるグローバルリーダーとして、社会に貢献する人へと成長して欲しいと私たちは願っています。

編集部 教育の柱はどんな点ですか。

大野 「豊かな人格形成」「確かな進学指導」「深める国際理解」の3つが柱です。

編集部 豊かな人格形成について、もう少し詳しくお願いします。

大野 本校の建学の精神と、ユネスコ憲章の「世界平和 人類共通の福祉」をベースにして、社会的責任感、自尊感情、豊かな感性を持てるように教育を進めます。

編集部 ユネスコというと、国連教育科学文化機関

のことですか。

大野 本校は一昨年、ユネスコスクールに加盟認定されました。ユネスコスクールはユネスコの理念を具体的な行動に結びつけるために設立されたネットワークで、「質の高い教育を実践し、普及させる」「人材養成、平和、正義を追求する」「世界中の青少年の教育ニーズに対応する」活動を実施するものです。本校でもこうした活動を日々実践していて、中学校でもこれらの活動を教育の中身に反映させて生徒の指導にあたっています。

編集部 生徒の人格形成の上で大切なことは何でしょうか。

大野 「自尊心(Self-Esteem)」と「勤勉性(Industry)」です。自分を信じる力を育てることによって、自分の人生を前向きに、積極的に組み立てていきます。他者との比較ではなく、過去の自分との比較によって、各々がスモールステップを確認しながら成長し、自分らしさも確立していきます。また、真面目に努力する勤勉性は、困難に直面した際、逃避せず問題解決に取り組む姿勢を育てます。これらは、習慣化することで大きく人を育てていきます。

編集部 「確かな進学指導」についてうかがいます。まず授業の時間数はどのようになっていますか。

大野 週6日制で、月・水は7時間、火・木・金は6時間、土曜日は4時間授業の週36時間です。金曜日には必要に応じて7時間目が入ることがあります。

編集部 主要教科のカリキュラム編成の方針はいかがでしょうか。

大野 6年間を中1・中2の基礎徹底期、中3・高1の実力養成期、高2・高3の挑戦・飛躍期に分けます。国数英の3教科について本来の中学の標準時間数よりも大幅に増やし、毎回の授業進度は早めずに中2までに中3内容を終了します。中3～高2で高校内容を学習しますが、高1からセンター試験内容の習得にも臨みます。高3は大学入試対策が中心です。しっかりした学力をつけながら進めることになりまますので、国語は正しい言葉による言語表現能力、数学は論理的思考力、英語はコミュニケーション能力に力点が置かれます。

編集部 理科、社会はいかがですか。

大野 理科、社会は中学内容を3年間かけてしっかり学びます。早く学習を進めるのではなく、例えば中1では通常の授業の他に異文化理解の授業を設ける、理科ならキャンパスを中心としたフィールドワ

ークでじっくり観察を行ったり、実験は十分に時間を確保する、などで学習を進めます。高2であらかたの内容の学習は終わりますが、倫理や生物・化学の一部などは高3まで学習内容が続きます。

編集部 英語はコミュニケーション能力に力点が置かれる、というお話ですが、具体的にはどんな取り組みを行なうのでしょうか。

大野 国際社会で通用する英語活用能力を育成するために、まずは英検準1級合格を目標にしますが、最低でも全員2級をとらせるところまでは育てます。単語数にして30万語ですね。これはユネスコスクールとしての活動の面からも大切です。

編集部 詳しくお願いします。

大野 英語が(国際社会の中でコミュニケーションの道具として)使えるようにするために、まず、ユネスコスクールの活動を通して「英語が実際に話されている現状を体験する」こと、そして日頃の授業で「分かるできる授業」を展開し基礎基本を徹底すること、更に放課後の英会話教室でプライベートレッスンを受け「正しい発音や会話力」を身に付けさせたいと考えています。

編集部 英語の授業はどのような進め方になるのでしょうか。

大野 授業は勿論オール・イングリッシュ。週3回はALTとのチームティーチングを行います。その中で英語力に必要な文法・語彙・句型変換を音声や文字を通して定着を図ります。特に、生徒が自然な環境で楽しく英語を身に付けるため、ゲーム、スキット、ごっこ遊びを行います。また、言語機能を踏まえた感情表現、チャット、ディスカッション、ディベートとレベルを上げ、コミュニケーションの基礎を身に付けさせていきます。

編集部 より実用性のあるコミュニケーション能力を養うために大切なことは何でしょうか。

大野 読む力や表現する力が不可欠です。そのために選択問題による語感育成、並べ替えによる文脈把握、音読やシャドーイングによる直読直解力の育成、30万語以上の多読を行いながら読解力を向上させます。また、表現力を向上させるため、マンガ作文、ストーリー・テリング、単語指定の英作文、英文日記、イーメールの回答、エッセイ作りを生徒の知的成長に合わせて実施します。6年間ですから、種(体験)蒔き、水(訓練)を与え、実(自立)を育てる指示・支援(目標管理)が重要と考えています。

編集部 以前から「受験英語」と「実践的な英語」は違う、と言われていますが、大学入試には大丈夫なのでしょうか。

大野 本当に実力があれば海外の人々とのコミュニケーションも日本の大学受験もこなせるものですが、河合塾のサテライトを導入する他、徹底的な個別指導を行なって、「受験英語」と「実践的な英語」の両方を満足する力をつけていきます。

編集部 先ほど、中高一貫生の進路として難関国公立大、難関私立大、海外の大学を前提、というお話でしたが、数値的な目標はお考えになりますか。

大野 入学後の生徒がどの分野に進みたいと考えるかによって合格の結果は変わるでしょうから数値での目標は掲げませんが、全員最低でもGMARCHレベル以上の大学には進学するように指導します。



国際学院の校舎

編集部 施設面についてお願いします。

大野 中学校は80名男女共学の募集です。当初は校舎本館の一部を中学生の専用フロアにあてます。

編集部 広い校地ですね。

大野 9万平方メートルあります。埼玉スタジアムの1.5倍ですね。この中に校舎の本館とホール、野球場、サッカーグラウンド、テニスコート、250mの陸上トラック、イベント広場などが整備されています。

編集部 中学生もこれらの施設を使うのですか。

大野 もちろんです。中高一貫部でも、授業に、部活動に、この施設をフルに活用することになります。

編集部 部活動はどのような予定ですか。

大野 原則として火・木・土の週3日を予定しています。体力差や中体連と高体連の機構の違いなどもありますから、特に運動系は現在の高校と一緒に活動することは想定していませんが、優秀な指導者はおりますので、十分な活動ができると思います。文化系については、特に人数が少ないうちは、可能な範

囲で現在の高校と一緒に活動することも考えています。

編集部 昼食についてはいかがでしょう。

大野 お弁当持参でも、食堂の定食を食べるのでも構いません。大きな食堂がありますので、お弁当の生徒もそこで一緒に食べることになります。お昼休みは高校とは時間をシフトしていますので、十分余裕をもって食事ができます。食育についても十分配慮していますので、栄養バランスのとれた定食を提供します。

編集部 入試はどのように実施予定でしょうか。

大野 1月10日午前午後、募集定員は合計20名、1月11日午前午後、募集定員は合計30名、1月13日午後、募集定員は20名、1月24日午前、募集定員は10名、2月6日午前、若干名募集で計画しています。

編集部 午前4回、午後3回の入試ですね。

大野 午前入試は国語、算数、理科、社会の4教科と、国語、算数の2教科入試を選択していただきます。午後入試は国語、算数の2教科です。合格発表は当日中にインターネットで行います。国語と算数は各50分100点満点、理科と社会は各25分50点満点です。

編集部 出題の基本方針をお願いします。

大野 国語は漢字などの知識問題、読解は文学的文章と説明的文章です。算数は計算、小問集合、図形や特殊算などの応用問題を出題します。理科は生命、物質、エネルギー、地球、社会は日本の地理、日本の歴史、政治から出題していきます。奇をてらった問題や難問は出題しません。中学受験生としての基礎学力があれば十分解ける問題とします。

編集部 特待合格などはあるのでしょうか。

大野 入試得点で8割以上得点した受験生は特待合格とする予定です。

編集部 最後に、受験生の皆さん、保護者の皆様にメッセージをお願いいたします。

大野 国際学院中学校の教師は常に子どもの味方です。最後まで責任を持って面倒をみていきます。こうした学校ですので、ぜひ、受験校の1つとしてお考えください。

編集部 ありがとうございます。

国際学院中学校(認可申請中)

交通案内 ニューシャトル志久駅から徒歩約12分

JR上尾・蓮田駅よりスクールバスあり

○説明会 7/14(土)13時30分～

○入試説明会 10/8(祝)、11/14(県民の日)、12/8(土)各10時～